

旧赤星鉄馬邸の保存・利活用を考える 市民ワークショップニュース

vol. **2**

令和5年5月発行 / 武蔵野市 総合政策部 資産活用課

旧赤星鉄馬邸と建物の文化財的価値と豊かな自然環境を次の世代へつなぐため、庭と建物との一体的な利活用を検討しています。全4回の市民ワークショップでは、利活用で大切にしたいこと、保存・利活用のアイデア、次世代につながるしくみを一緒に考えていきます。

このニューズレターでは、毎回のワークショップの内容を市民の皆様が発信していきます。



第2回ワークショップの様子

ワークショップの予定

※参加申込みは締め切りました
傍聴可(要事前申込)

第1回 1/22(日) 旧赤星邸を知ろう

第2回 3/19(日)
旧赤星邸の利活用で大切にしたいことを考えよう

第3回 5/14(日) 次回
テーマに沿って利活用アイデアを考えよう

第4回 7/9(日)
次世代につながるしくみを考えよう

第2回ワークショップを実施しました

日にち：令和5年3月19日(日)

時間：13:30～16:30

会場：武蔵野スイングホール
10階スカイルーム

参加人数：46名(6班編成で実施)

当日のプログラム

- 前回のふりかえりと今日の進め方
- 市からの情報提供
- テーマ1：「市からの情報提供の内容を確認し、意見交換しましょう」
- テーマ2：「旧赤星邸の利活用で大切にしたいこととは？」

①





01 視点をもとに意見を出し合おう

前回ワークショップで出された視点に修正、追加がないか確認したうえで、視点をもとに「どんな過ごし方ができるか?」「使い方ができるか?」想いやアイデアを出し合いました。

視点 1 市民のための場

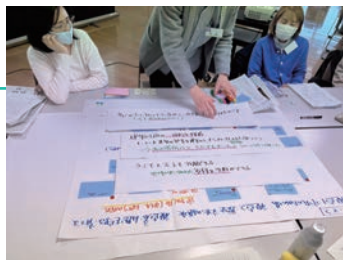
日常的に、気軽に使える

日常生活の延長上で使え、近隣住民が気軽に過ごせる場所にしたい。

庭でピクニックしたり、子どもが遊んでいるのを

親は室内から眺めて飲食が楽しめるようにする。コーヒーやお茶を飲みながら、きれいな庭や藤棚、緑を眺めてぼーっとしたり、ゆっくり休め、レーモンドの想いも感じられるようにする。

市民自らが主体的に管理できたり、お母さんたちの勉強ができる場所、夜もカフェなどで入れるが健全な場所が望まれる。



静かに過ごす、癒される

旧赤星邸はクローズの良さもあり、ただたずむ贅沢を大切に、日々の疲れを癒やせるようにしたい。

利活用のアイデアは多く出ているが、運営費用がかなりかかると思われるので、静かな使い方に絞り込む方が良い。また近隣にとっても迷惑にならないようにする必要がある。



様々な人との共生、交流の場

建物と庭を使って、健常者と障がい者が共生できる社会をめざした意識づくり、教育の場や多世代交流や国際交流などの場所にしたい。

グループでの集い、活動の場

市民の冠婚葬祭や、地域の保育園や高齢者施設の方など市民も参列できるような開かれたセレモニーができる。また地域の団体や子どもたちのガーデンパーティーや発表の場、コワーキングスペースなどビジネスパーソンが集まれる場所にする。

子ども、10代、若者の居場所

子どもが大切にされて育ち、楽しめる。こども食堂や中高生のための居場所、小部屋を活用した勉強やおしゃべり等自由に使える空間や、子どもの劇団や若者の演奏の練習や発表の場になると良い。蔵の部分は若者がクリエイティブなことをする場にできる。

多様な使い方ができる可能性 (市民 + α)

世代や障害の有無にかかわらず誰でも使える施設にし、地域のためにやりたい人たちがチャレンジできる。今からターゲットを絞らずに社会実験で検証してから考えていくのも良い。

ワークショップでは、旧赤星鉄馬邸がもつ建築や庭、歴史を生かした癒やしの場や、様々な人の集いの場としての利活用アイデアのほか、収益を考えた利活用など様々な意見をいただきました。

次回は今回出された利活用のコンセプトに沿った具体的な利活用アイデアを考えます。



視点 2 歴史・文化の継承

建築を楽しむ、知る

アントニン・レーモンド設計の施設として楽しんでほしいので、一部は見学のみ可としたり、有料制でも良い。建築マニアはレーモンドの名前で訪れる人もいる。また建物についてよく知ってもらい、大切に扱う意識も育てたい。

場所の歴史を感じる、伝える

旧赤星邸を守ることの大切さを伝えるため、学校やイベントなどでの教育や組織づくりや実際の場所を使って、当時の生活を感じられるようにしたい。

赤星鉄馬の思想や行動を継承し、学習や研究にまつわるものやボランティア活動ができる場になると良い。

赤星鉄馬一家や修道女会が使用した流れを感じ、知ること、武蔵野市の歴史や地域性を知ることができるようになる。

建物と庭を一体で楽しむ

藤棚など屋外と屋内をつなぐ場所が今でも充実している。その一体感を楽しむ趣味活動ができる場所として整備し、一日の時間の流れ、四季の移り変わりが感じられる場所にしたい。

視点 3 自然を守る・育てる

既存の緑を守る

開放的な庭で、貴重な緑空間なので、自然を守り、大きな樹木など既設の植物をいつくしむことができる場所にしたい。

市民が参加し、活用し育てていきたい。

自然を楽しむ、生物多様性

虫とりができたり、コモンズとして庭を小規模農園や菜園にしたい。地域由来の植物があるような環境や遊具のない遊び場があると良い。



視点 4 観光資源

観光資源として活用

観光資源として、全国の建築好きを引きつける場所にしたい。また、市全体としての観光資源にしたい。

レーモンド建築や赤星邸、修道院と複数の文脈や価値を束ねるコンセプトが必要だ。

庭を生かした資源に

季節の花を楽しんだり、庭の雰囲気を生かした「赤



星フラワーガーデン」にし、庭でお茶を楽しんだり、ガーデンツアーとして市外から訪ねられると良い。



視点 5 持続可能な利活用

次世代に伝える

50年、100年とリアルに使い、見学できるように維持したい。旧赤星邸を残した目的や経緯を次世代に理解してもらい、価値あるもの、この場所があることを誇りに思えるようにする。また今の時代に即した使い方ができるようにする。

きちんと保存し、使えるようにしていくためには、管理主体へ支払う維持管理費は必要経費としてかかる。収益も考えないといけない。



収益を得る

土地取得費用が高額なので、収益のある施設にしないと持続的な運営は厳しいのではないかな。

2階をオフィスにしたり、ギャラリーとして利用して若手の芸術家発掘の場やフィルムコミッション等に使って、収益を得たり、他のレーモンド建築とも連携し「アントニン・レーモンド建築基金」をつくってはどうか。

市民による管理

営利事業ではない収益をあげる方法を考え、市民の自由な活動の場にしたい。

市民が掃除したり管理運営に関わってはどうか。市民が管理・運営するのが良いが、ボランティアだけの運営は難しいだろう。



視点 6 その他

安心安全

塀が高すぎて、中が見えない。周辺は交通量が多く、子どもの飛び出しが心配だ。

周囲の方の安心感を得るために、クローズにしながらも中がわかるような外観、開閉門の時間を決める、安全に入退場が管理されている方が良い。

マナーの悪い使い方を排除するために、開放しすぎないようにしたり、一部有料化するなども考えたい。



参加者コメントシートより

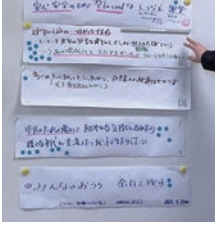
- 他の方の意見を聞きながら、だんだんと自分の考えも変化していったように思います。
- ワークショップでの検討結果がしっかりと生かせることを期待します。
- 当日説明のボリュームがあると感じたので、資料は事

02

グループ発表、シール投票

グループ毎に短冊にまとめた意見を発表後、全員でシール投票(1人3枚)をしました。

●内の数字は当日のシール投票数



ぼーっとしながら五感を満たす、季節とともに
ex) 食事、お酒、お茶

12

市民のための場として、おだやかな気持ちになれたり、様々な年代が交流したりイベントできたりしたい

10

赤星鉄馬+ナミュールの歴史 守ることの大切さを次世代に教育する

9

建物と庭の一体的な保存、レーモンド建築の質素な建物をもう少し手を入れた(整備)庭づくり
⇒あの場合らしさ、たたくむぜいたく、クローズな良さを楽しむ

8

市民のリビングとして生活に地続きの場所にしたい
市民が主体的に管理する

7

100年後の人が「この場所があって良かった」と思える価値ある活用を!! 新しい視点/「建物がある」だけでなく「人が集ってこそ」の場

7

コンサートや結婚式会場等に活用して過ごした時間が思い出になる場所に(建物の保存、近隣にも配慮)

6

土地が持つDNAを(50年、100年)つなげる
赤星さん、レーモンド、中島飛行場、修道女会、歴史

5

庭の芝を生かしてセレモニー・イベントなどの動の活動と静の活動でゆったりと飲食しながら過ごす

4

広義の市民(市内市外問わず)が小さな結婚式、家族のお葬式、卒園の集いとか小さな集まりができる

4

様々な人(子供・障がい者・高齢者・多様な人種の人etc)が集い、共生できる愛のあふれる場所に(ピクニック、参加型ワークショップ、休憩所、子ども食堂として)

3

お庭を楽しみ、建物と一体となった眺望が楽しめる場として活用 ぼーっとする、絵を描く、ガーデンツアー

3

子どもも大人も利用できる
地域のリビングのように多様な活用ができる

2

近隣の人にとって利用者にとっての安心・安全のために少しclosedなしつらえ(少し中が見える、出入りは限られたところだけ)と運営(常時開放やペット×)

2

みんなのおうち、余白を残す
コミセン、施設ではなく家、使われ方、使う人

2

お母さんたちの勉強やコワーキングスペースとしてクリエイティブな場に 赤星鉄馬の想いを受け継ぐ

2

多くの方に知ってもらいながら(を巻き込みながら)、近隣への配慮は欠かさず

1

歴史文化を継承しながら、建築好きをひきつけたり、文化、アートギャラリーとして使いたい

1

- 前に共有していただけると、多少なりとも目を通すことができ理解が深まると思います。
- 言いたかったことは全部話ことができました。ただいろいろなさまざまな意見があり、まとめるのが大変だなと思いました。

3

旧赤星鉄馬邸利活用での前提条件

～第2回ワークショップ市の情報提供より抜粋～

※詳しい内容は市ホームページ掲載の資料をご覧ください。

自然環境の継承

- 公園空白地域内にあるため、公園として整備
- 32本の保存樹木は樹木医診断のうえで保存の方向性を検討
- 具体的な公園整備の設えは、保存活用計画策定委員会と並行で公園整備意見交換会（仮）の実施を検討

建物の有効活用

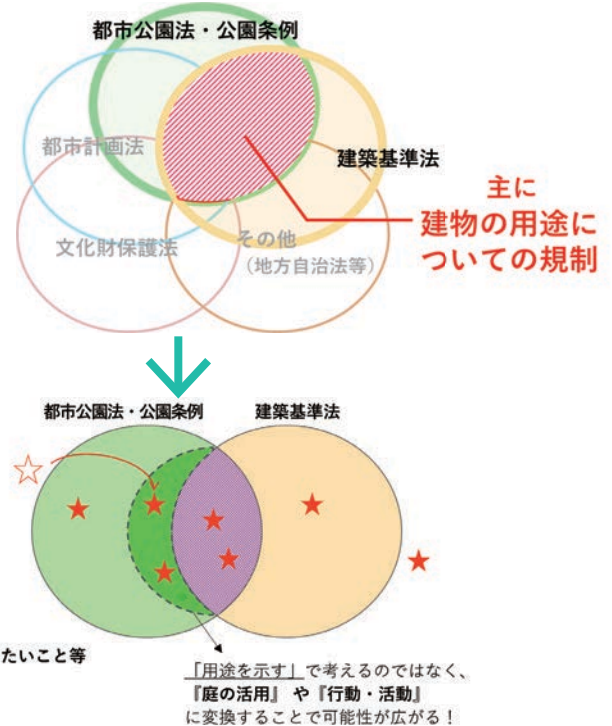
- 文化的・歴史的な価値を守るために必要な修復・補修、復元、耐震補強等の改修
- 公共施設としてのバリアフリー化
- 安全性を確保するための改修等（アスベスト除去、避難経路確保等）

財政負担の軽減

- 登録有形文化財の利活用検討や建築改修等に係る文化庁の補助金を確保
- 敷地全体を都市公園とし、国や都の補助金を確保
- 財政負担軽減のための運営方法を検討
- ふるさと応援寄付（ふるさと納税）を検討

POINT

法的な規制は主に建物の用途に関すること
→庭の活用方法や、何をしたいか、どんなことをしたいか、を考えることで可能性は広がる！



当日の質疑応答より

Q. 敷地全体が都市公園となる前提での利活用検討ということであれば、市民ワークショップではどんな意見を出せばよいのか？

A. 「公園」といっても遊具のある公園だけでなく、もっと幅広く、緑地や庭園型など様々です。旧赤星邸鉄馬邸建物の保存・利活用はもとより、庭の活用もあわせて検討を進めています。市民ワークショップでは庭と建物を一体的にとらえて、何を大切にしていくのか、何をしたいかを考えていただき、そのアイデアを秋以降に実施する社会実験に活かしたいと考えています。

Q. 敷地内の旧赤星鉄馬邸、礼拝棟、修室棟の3つの建物のうち登録有形文化財はどれか？

A. 旧赤星鉄馬邸のみです。礼拝棟と修室棟は建築年数も浅く、登録有形文化財の要件を満たしていません。

Q. 旧赤星邸の利活用に関する予算は、修繕や維持管理等も含めてどのくらいを見込んでいるのか。

A. 今現在の維持管理費は、植栽の維持管理や警備、光熱費等で年間約500万円ですが、今後必要となる予算は現時点では決まっておられません。登録有形文化財として保存するために必要な補修や復元工事に要する費用や、維持管理にかかる費用は必要経費と捉えているので、文化庁の補助金やふるさと応援寄付などの財源を活用しながら、適切に予算化していきたいと考えています。



旧赤星鉄馬邸一般公開ウィーク



予約不要

※入場を制限する場合があります。

公開日：5/10（水）～16（火）

秋にも開催予定です

公開時間：午前10時～午後3時30分（最終受付午後3時）

※混雑状況を市公式Facebook、Twitterでお知らせします。

住所：武蔵野市吉祥寺本町4丁目26番21号

順路に沿って見学します。庭も見学可能です。

※駐車場はありません。駐輪場に限りがございます。

公共交通機関をご利用ください。

みなさまの声を聞かせてください！

Webにて、旧赤星鉄馬邸の保存・利活用に関する意見を募集しています。いただいたご意見は利活用検討の参考にします。



問合せ先 〒180-8777 武蔵野市緑町2-2-28 武蔵野市役所 総合政策部 資産活用課

電話：0422-60-1973 fax：0422-51-5638 E-mail：sec-shisankatsuyou@city.musashino.lg.jp